

全量種子更新100%の実施！



令和4年産 みなみ筑後の麦づくりこよみ

作成日：令和3年7月27日
南筑後農業協同組合
南筑後普及指導センター

赤かび病防除の実施による高品質麦づくり！

喜ばれる
みなみ筑後の
麦作りを行い
ましょう！

- ① 全量種子更新の実施
- ② 土づくりの実施
- ③ 赤かび病防除の実施
- ④ タンパク質含有率等の向上

月旬	11		12		1			2			3			4			5			6	
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
生育期間	播種適期				栄養生长期間						幼穂伸长期間			登熟期間							
主な作業 〔資材名〕 〔実施日〕	優良種子の準備	種子消毒	基肥施用	播種	除草剤散布	追肥(小麦)	土入れ排水①	追肥(大麦)	除草剤散布	麦踏み	土入れ排水③	穂揃期追肥	赤かび病防除								収穫

※○印の数字は、作業回数を表わす。

品種特性表

区分	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	耐倒伏性	栽培上の注意点
小麦	シロガネコムギにしのやわら	4.10	5.28	80	8.1	556	極強	穂数の確保を図り、穂発芽に注意する。
小麦	みなみのやわら	4.14	6.3	84	7.7	507	強	パン・中華種用小麦。赤かび病・穂発芽に注意する。
大麦	はるしずく	4.8	5.21	87	6.9	583	強	早播きや播種量増は避け、適期播種適性播種量を守る。ヤギシロトビムシの害は小麦より出にくい。

※出穂期、成熟期は筑後地域の月日を記載。
※「みなみのやわら」は、「ミナミノカオリ」の特性を準用。



カラスノエンドウ

カズノコグサ

スズメノテッポウ

赤かび病

小麦の収穫期の水分と適切な収穫法

子実水分 %	適切な収穫法
25~30	コンバイン収穫はできるが品質をわずかに損う
20~24	コンバイン収穫に適する
17以下	脱粒などのロスが多く、品質が著しく悪くなる

	仕上水分
小麦	11.5%以下
大麦	12.5%以下

1. 播種適期・播種量

小麦	播種適期	11月15日～11月30日
小麦	播種量	6～7kg/10a
大麦	播種適期	11月25日～12月10日
大麦	播種量	5kg/10a

※土壌が乾燥している場合は播種後鎮圧を行う。
※播種が遅れた場合は、3割程度播種量を増やす。
※5cm以上の深播きは行わない。
※適期播種に努める。

2. 種子消毒

種子更新をしましょう!!

対象病害虫	薬剤名	処理方法および処理時期
斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートコート	乾燥種子重量の0.5% 【種子10kgに50g】を種子粉衣する。
ヤギシロトビムシ (小麦のみ)	アドマイヤー水和剤	乾燥種子重量の0.15% 【種子10kgに15g】を種子粉衣する。
大麦 斑葉病・斑葉病 なまぐさ黒穂病 ヤギシロトビムシ	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子1kg当り原液20ml 【種子10kgに200ml】を塗抹する。

※ヤギシロトビムシ被害の発生は局域では、アドマイヤー水和剤とキヒゲンR-2フロアブルの混合を行う。

3. 土づくり基準

排水対策	地下排水	有材暗渠・弾丸暗渠
	表面排水	は場開削・うね開(牧地に溝を切り排水溝に通す。)
有機物の施用	種わら	全量12～15cmの深さですき込む
	堆肥	牛ふん(発酵処理物1～2t)
土壌改良資材	資材名	10a当り施用量
	とれ太郎	60kg
	ミネラルG	160kg
酸性矯正資材	炭酸苦土石灰	200kg
	消石灰	160kg

※特に大麦は、酸性土壌に弱いので酸性矯正資材を投入する。
※堆肥散布後については、直ちにすき込みを行う。
※種わらについては、焼却せず有機物の施用としてすき込む。

4. 施肥基準 (適期播)

※タンパク質含有率を上げるため一発追肥又は2回追肥を行いましょう!

品種名	施肥項目・時期及び肥料	基肥	一発追肥(※型別)		追肥		穂揃期追肥
			小麦 1月中旬～ 1月下旬	小麦 1月中旬～ 1月下旬	小麦 1月中旬～ 1月下旬	小麦 2月下旬～ 3月上旬	
小麦 シロガネコムギ にしのやわら	40kg	ちくこのめぐみ 444 (14-14-14)	小麦 1月中旬～ 1月下旬 40kg	小麦 1月中旬～ 1月下旬 40kg	NK2号 (16-0-16) 30kg	NK2号 (16-0-16) 10kg	—
小麦 みなみのやわら	40kg	硬質小麦専用追肥 (30-0-4) 40kg	小麦 1月中旬～ 1月下旬 40kg	小麦 1月中旬～ 1月下旬 40kg	NK2号 (16-0-16) 30kg	NK2号 (16-0-16) 10kg	10kg
大麦 はるしずく	20kg	—	—	—	NK2号 (16-0-16) 20kg	—	—

※大麦は播種は基肥を大麦小麦ともに50%程度減量し、追肥についても生育状況により加減する。
※種わらを全量すきこむ場合は基肥を10kg増量する。
※追肥後は効果を安定させるため土入れを必ず実施する。
※みなみのやわらについては、タンパク質含有率を上げるために、穂揃期追肥(実肥)を実施する。

5. 病害虫防除

対象病害虫	薬剤名	処理方法	使用回数	使用時期
赤かび病	トップジンM粉剤DL	4kg/10a	—	収穫14日前まで
	トップジンM水和剤	1000～1500倍 100g/10a	出穂期以降 小麦2回以内 大麦1回以内	小麦 収穫14日前まで 大麦 収穫30日前まで
	トップジンMゾル (無人航空機散布)	8倍 0.8g/10a	—	小麦 収穫14日前まで 大麦 収穫21日前まで

※みなみのやわらは、赤かび病に強いので2回防除を行う。2回目は1回目の5～7日後に実施する。

6. 除草基準

土壌処理剤を必ず使用しましょう。

区分	薬剤名	処理時期	10a当り使用量 (散布濃度)	使用上の注意事項
雑草多発田	バスタ液剤	播種前又は 播種後出芽前	300～500ml (100～150l)	農地及び畦畔には必ず農 用除草剤を使用する。 乳剤、粒剤ともに排水不 良田や降雨(特に大雨)の 前後には使用しない。
	ラウンドアップマックスロード	播種前又は 播種後出芽前	200～500ml (25～100l)	
土壌処理剤	クリアターン乳剤	播種直後 (雑草発生前)	500～700ml (70～100l)	一年生広葉雑草の残存草の 多い畑等に散布する。 除草剤抵抗性スズメノテッポウ には効果が無いので注意する。
	クリアターン細粒剤F	播種直後 (雑草発生前)	4～5kg	
	リベレーター-G(粒剤)	播種後～2葉期 (雑草発生前～ イネ科雑草1葉期まで)	4～5kg	
茎葉処理剤	リベレーターフロアブル	播種後～3葉期 (雑草発生前～ イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml (100l)	カラスノエンドウ発生田は小 さいうち(7cm程度)にアクチ ノールB乳剤を散布する。 ヤエムグラの多い場合は、エコ パートフロアブルを散布する。
	ハーモニー細粒剤F	播種後～3葉期 (雑草発生前～発生初期)	4～5kg	
	ハーモニー75DF	播種後～出穂期 (スズメノテッポウ5葉期まで)	5～10g (100l)	
	アクチノールB乳剤	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100～200ml (70～100l)	
	エコパートフロアブル	出穂期開始期まで (広葉雑草2～4葉期まで)	50～100ml (100l)	

※①バスタ液剤、ラウンドアップマックスロード、ハーモニー75DFの散布については
周辺作物に被害を与えるため、散布時の飛散(専用ノズルの使用)に十分注意する。
②ハーモニー75DF散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間循環させた後、
水洗いをする。
③ハーモニー細粒剤F・ハーモニー75DFの2回散布は出来ない。
④土壌処理剤は土壌が大きいと効果がでやすいので十分砕土を行い、
2～3cmの深さに播種する。
⑤カラスノエンドウは、除草剤に加え、草の開花期までに抜き取る。

7. 適期管理作業

適期管理作業が速やかに行えるように、灌水対策を行っておくことが基本。

- (1) 土入れ 雑草や無効分げつの抑制・倒伏防止・表面排水等の効果がある。1月上旬～中旬(本葉3～4枚頃)・2月上旬～中旬・3月上旬の土壌の乾燥した日に行う。第1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育にともなって土の量を増やしていく。
- (2) 麦踏み 分げつ促進と徒長の防止に効果がある。1月上旬～2月中旬(節間伸長開始まで)に土壌の乾燥した午後3～5時行う。
- (3) 土入れ・麦踏み作業での注意事項は次のとおりです。
① 土入れは麦踏み前に行い、麦踏み直後には行わない。
② 麦踏みは茎葉に霜・露があるとき行うと損傷が大きい。また、土が湿っている時に行くと土をしめつけることにより、その後の生育を抑制するので注意する。

8. 倒伏防止対策

- 《基本対策》
- (1) 適期に適量の播種を行う。
 - (2) 踏圧・土入れ、排水対策などの管理作業を徹底する。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!

南筑後農業協同組合農畜産課 電話(63)-8814
南筑後普及指導センター 電話(62)-4191
瀬高グリーンセンター 電話(62)-4111
大牟田グリーンセンター 電話(56)-8915
山川グリーンセンター 電話(67)-1214
高田グリーンセンター 電話(22)-3218

麦栽培情報 4月号

南筑後農業協同組合 農畜産課
南筑後普及指導センター

【生育概況】

播種は11月15日頃から始まり、12月上旬までで概ね終了しました。期間を通じて気温が低めに経過したため、茎立ちは昨年と比べ遅くなりました。しかし、小麦、大麦ともに生育は平年並みからやや早めで推移しています。

今後も、麦の生育と気象予報を見ながら、適期作業を心がけてください。

出穂期は、大麦は3月25日より出穂が確認されましたが、3月下旬以降低温の影響で、同時期に播種された大麦と比較すると遅くなり4月に入ってからの出穂となりました。出穂期以降に湿害の影響を受けると、枯れ熱れ等により収量・品質が低下しますので、降雨に備えて排水溝を整備し、ほ場内に水が停滞しないようにしてください。

11月15日頃に播種した場合の予想出穂期：「はるしづく」3月25日頃、
「シロガネコムギ・にしのやわら」3月30日頃、「みなみのやわら」4月1日頃

品種名	赤かび病の防除適期	
	大麦	小麦
はるしづく (大麦)	出穂期後から10日頃 (出穂後12~14日)	開花期頃 (出穂後7~10日)
シロガネコムギ・にしのやわら (小麦)	出穂期 (予想) 3月25日~30日	予想防除適期 4月6日~13日
みなみのやわら (小麦)	4月1日~4月6日	4月8日~16日
	4月3日~7日	1回目 4月10日~17日 2回目 1回目の約1週間後

※「みなみのやわら」は赤かび病に弱いため2回防除を行います。

赤かび粒混入限度は
0.0%
農産物検査法
農産物検査規格

※混入すると、民間流通麦として流通できなくなります。
※口にすると、人畜に中毒症状を引き起こす可能性があります。

防除実施後に降雨や曇天が続く多発が予想される場合は、
1回目の7日後に2回目の防除を実施します。

赤かび病防除薬剤一覧

薬剤名	作物名	希釈倍数	10a当たり散布量	使用時期	本剤使用回数	
トップジンM粉剤DL	大麦	—	4kg	収穫14日前まで	出穂期以降 小麦2回以内 大麦1回以内	
	小麦					
トップジンM水和剤	大麦	1,000倍	1000	収穫30日前まで		
	小麦			収穫14日前まで		
ワグアップ707P	大麦	2,000倍	1000	収穫7日前まで		大麦・小麦 3回以内
	小麦					

※粉剤は、散布後5~6時間以内に降雨に遭うと効果が低下するのでご注意ください。
※トップジンMの登録は、大麦では出穂期以降1回のみとなります。「みなみのやわら」は、赤かび病に弱いので2回防除を行います。トップジンMを1回目に用いた場合は、2回目は使用時期・使用回数を確認の上、散布を実施してください。

※麦類の赤かび病防除時における農薬使用上の注意点

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう。

高菜やワスなど隣接しているほ場において、農薬を散布する場合は以下の点に注意して下さい。

特に、高菜はトップジンM粉剤DL・水和剤及びワグアップ707Pの登録がないので、注意が必要です。

- ① 麦以外の作物と隣接しているほ場では、周囲の農家とよく話し合っ、ハウスはシャドを閉める、近隣作物の収穫が近い場合には、防除適期の範囲内で散布時期をずらすなどの対応をお願いします。
- ② 粉剤を使用する場合は、飛散しやすいので風向きを確認し、風の無い時間帯に散布を行ってください。

ドリフト (飛散) 防止

【みなみのやわら穂揃い期追肥】

「みなみのやわら」は、パン用小麦であり、子実のたんぱく質含有率の基準値が11.5%から14.0%と高く設定されています(目標12.0%以上)。この基準値内でない場合、ランク区分が下がるとともに、製粉業者をはじめとした実需者から避けられ、結果として販売単価を下げってしまうことになりかねません。

なお、令和元年のたんぱく質含有率は11.6%、2年産が11.2%、3年産は11.5%と、3年連続して目標値を下回っています。

生産者ごとのたんぱく質含有率のバラつきをなくし、一丸となってJAみなみ筑後の麦の品質を向上させていきましょう!

○たんぱく質含有率目標

みなみのやわら (パン・中華麺用) 12.0%

○追肥時期 穂揃い期 (穂が8~9割出穂した時期) ~穂揃い期7日後 (出穂期から10日後)

みなみのやわら穂揃期追肥 (たんぱく質含有率向上の為、確実に散布しましょう)

品種名	施用時期	肥料名	施用量
みなみのやわら	穂揃い期~穂揃い期7日後 4月6日~15日	硫安	15~20kg/10a

※窒素成分2kg/10a(硫安で10kg)ごとに、たんぱく質含有率が1%向上します。

(参考)

「尿素の葉面散布」も可能です。その場合は、1回あたり、尿素4kg/1000/10a(窒素成分で1.9kg)とし、以下の点に注意して2回散布してください。

- ① 25℃以上の高温・晴天時に施肥すると、葉焼け程度が激しくなりますので、晴天の日中を避けて涼しい時に施肥してください。
- ② 施用時期は、出穂後7日目とその1週間後の赤かび病防除と兼ねて行ってください。
- ③ 乗用管理機で処理した場合、洗浄が不十分だと機械内部のサビの原因となるため、入念に洗浄してください。